

フランスに到着してから怒涛の一ヵ月を終えました。はじめは右も左も分からない状態であったにも関わらず、今ではフランスでの生活というものに慣れてきたように感じます。言語、文化、気候、食生活、ありとあらゆるものが日本とは異なるフランス。今回はそんなフランスの魅力溢れる生活について綴っていこうと思います。



1. 言語

まず初めは言語についてです。正直、言語の違いというものが一番実感しやすく、苦勞する点でもあります。もちろんですがフランスにあるものは全てフランス語で表記されています。フランスに着いてから一週間くらいはこの言語の壁に苦しめられました。生活するうえで必要なものを買うに行くためにスーパーへ買い出しに行くことがあります。しかし商品はすべてフランス語、シャンプーやコンディショナー、洗濯用洗剤から柔軟剤、ありとあらゆるものを翻訳機を駆使し、時にはインターネットでの画像と見比べながらコツコツと買い集めていきました。またレジのスタンスも日本とは違い、店員さんに聞いてもフランス語で返され困惑、そんな日々が続きました。

しかし一ヵ月も経てば慣れるもので、表記されているものは何となくの感じで理解することもできるようになってきます。会話をすることはできませんが、それでも、ベーカリーや八百屋で注文するなど、最低限のフランス語を駆使して買い物するくらいはできるようになりました。

2. 文化

次に述べたいのはフランスの文化についてです。これは私が感じたことなのですが、フランスの人たちは皆ゆったりとした時間を過ごしていると感じます。日本の

ように時間に追われることは少なく、歩くペースも皆ゆっくりです。そんなゆったりな時間軸に生きているからか穏やかな性格の人が多いような気がします。

フランスの南部に位置するニースでは地中海のビーチが延々と連なっています。そんなビーチを横目に散歩してみると、私のように散歩する人、ベンチに座ってビーチを眺めている人、砂浜に座って本を読んでいる人、ビーチで泳いでいる人、様々な人を見かけます。この報告書を書いている11月現在でも涼しくはなってきたとはいえ、昼間の気温は暖かいので海で泳いでいる人を見かけることもあります。日本との季節感覚のズレを実感せざるおえません。

3. 食生活

フランスでの食生活について述べていこうと思います。正直に申し上げますと私はフランスでの食文化を完璧には理解していません。私は一人暮らしのため。ただ、朝はよくパンを食べるようになりました。さすがフランスというだけあってフランスの至る所にベーカリーがあります。感覚的には日本のコンビニくらい至る所にあります。それだけベーカリーがあるのですからフランスの人はさぞパンを食べるのだろうと感じます。実際朝ベーカリーに出かけると、バゲットを抱えながら道を歩く人を多く見かけます。お昼時にベーカリーへ行けば行列が出来ています。やはりフランスはパンが主食の文化で間違いなさそうです。そして私の住むニースはかつてイタリアの統治下にあったためかイタリアの食文化も混ざっているように思います。ピザやパスタを食べている人を見かけることも多いです。



ちなみに私はというとスーパーで米を買って食べています。醤油やカップラーメンなど日本食は割と簡単に手に入ります。ただ少し値が張ります。

4. 交通

最後は交通の便について記そうと思います。第一に交通の便はとても良いです。確かに日本ほど時間きっちりではない部分がありますがバスやトラムの本数が多いので、長い時間待たされるということは少ないです。これはニースがリゾート地であることが由来していると思われます。観光客が多いのでその分交通の整備も整っているようです。乗車券は、一日バス、一週間バス、など使用頻度に応じて購入することが可能です。私は定期のように一ヵ月毎に支払いを行っております。

5. まとめ

フランスでの生活は日本とは勝手が違い上手く行かないことの連続です。生活に慣れたとはいってもトラブルが無いということはありません。毎日生きるのに必死です。しかし、時に先輩に助けを請い、いろいろと教えてもらったり、時に友達に助けてもらったり、本当に周りに支えられながらぎりぎりの状態を保ち生きています。それでも毎日が苦しいなんてことは無く、毎日楽しく過ごすことが出来ています。自分を支えてくれているすべての人に感謝し、一日一日を大切に噛みしめながら残りの少ない留学生生活を学びに変えていこうと思います。

